

WHO ファクトシート

条虫症・囊虫症

Taeniasis/cysticercosis

2017年3月

重要な事実

- ・条虫症は、条虫(サナダムシ)の成虫によって引き起こされる腸の感染症である。
- ・三種の条虫が人の条虫症の原因となり、それは有鉤条虫、無鉤条虫及び広節裂頭条虫である。重大な健康障害を引き起こすのは有鉤条虫だけである。
- ・有鉤条虫症は、加熱不十分な豚肉の中にある条虫の幼虫の囊包(囊虫)を人が摂取することによって罹る。
- ・条虫に感染した人は、糞便中に条虫の卵を排出し、屋外の排便では環境を汚染する。
- ・人は、汚染された食物や水の摂取や不衛生の結果、有鉤条虫の卵に感染することがある。
- ・摂取された有鉤条虫の卵は、人体の様々な器官の中で幼虫(囊虫と呼ばれる)に成長する。それらが中枢神経系に入るとてんかん発作などの神経症状(神経囊虫症)を引き起こすことがある。
- ・人々と放し飼いのブタが狭く近接したところで暮らす多くの流行地域では、有鉤条虫がてんかんの30%の原因となっている。
- ・世界中のてんかん患者5000万人の約80%は、低及び低中所得国に住んでいる。
- ・対策手段の組みあわせは有効であり、その実行方法は現地の設営状況や資源に依存している。

本件ファクトシートについて、厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)では全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Taeniasis/cysticercosis ファクトシート原文は [こちら](#)